新潟県 教育月報 3月号

第852号
令和３年３月１日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

＜今月号の記事＞

		対象校種
１：教育ニュースライン	Ｐ１	全種
２：学校における働き方改革の推進	Ｐ２～３	小中高
３：魅力と活力ある学校づくり推進事業	Ｐ４～６	中高
４：新潟県高校生　理数トップセミナーについて	Ｐ７	中高
５：スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）事業	Ｐ８	中高
６：新潟大学医学部医学科体験講座	Ｐ９	中高
７：インフォメーション	Ｐ10	全種

教育ニュースライン

県教育に関する最新ニュースをお知らせします。

「新潟県人権教育基本方針」の改定に係る第３回有識者懇談会を開催しました

県教育委員会では、「新潟県人権教育・啓発推進基本指針」の改定（Ｒ２．３）や「人権教育、同和教育に関する教職員意識調査」（Ｒ２．３）の結果を踏まえ、「新潟県人権教育基本方針」（H22．９）の改定を進めています。

改定に際して、専門的立場から幅広く意見を聴取するために、新潟大学法学部長の渡辺豊教授を座長とする11名の有識者の皆様と懇談会を開催（全３回）し、いただいた御意見を参考にしながら、内容等の充実を図っています。

第３回は、パブリック・コメントの結果を反映させた「新潟県人権教育基本方針」の改定案等について協議しました。協議では、新潟県の現状を踏まえた方針の記述の在り方について御意見をいただきました。

いただいた御意見を参考にしながら、今後改定案を修正し、今年度末までに、改定の趣旨や主なポイント等を記載したリーフレットを配布する予定です。

教育統計資料「新潟県の教育」（電子版）を発行しました

「新潟県の教育」は、県の教育の現状に関する最新のデータを掲載した教育統計資料です。

児童・生徒数の推移や県予算における教育費の占める割合などをグラフや図で分かりやすく紹介していますので、広く御活用ください。

※今年度から電子版のみでの提供となります。

「新潟県の教育2021．２月作成」URL
https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/niigatakennokyouiku2020.html

学校における働き方改革の推進

義務教育課

はじめに　～働き方改革の必要性～

これまでの教職員の多くは、「子どものために」を合い言葉に、その使命感から様々な社会の要請に献身的に応え、これまでの学校教育を支え成果を上げてきました。今、学校を取り巻く環境は、複雑化・多様化しており、その中で働く教職員は、学習指導のみならず広範な役割を担っています。生徒指導上の課題や特別な支援を要する児童・生徒の増加、いじめ問題への対応等、教職員の業務は更に拡大する傾向にあります。

このような教職員の役割や業務の増大は長時間勤務という形で表れており、看過できない深刻な状況となっています。これまでの学校の取組の良さを維持し、質の高い学校教育を持続・発展させるためにも、教職員の業務負担の軽減を図り、長時間勤務を解消することが喫緊の課題です。

教職員が授業や授業準備等に集中し、教育の質を高められる環境を構築することは、これからの社会を生き抜く児童生徒に必要な資質・能力を高める教育を一層行っていくために必要不可欠なことです。教職員が疲労や心理的負担を過度に蓄積して、心身の健康を損なうことのないよう執務環境を整備し、限られた時間の中で最大限の効果を上げられるよう働き方改革を進める必要があります。

勤務時間の上限に関する方針

県教育委員会は、令和元年12月に文部科学省の「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を受けて、「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」を策定し、その取組の方向性、取組の具体等を県立学校に対して示すとともに、市町村教育委員会に対して、本方針を情報提供し、働き方改革への取組をはたらきかけました。

本方針による取組によって、業務の適正化と質的転換により、教職員の負担を軽減することで、教職員のワーク・ライフ・バランスの実現を図りながら、教育力を向上していくという、子どもたちのために持続可能な学校づくりを行っていきます。そして、これからも優秀な若者が新潟県の教員になりたいと思えるよう、教員の仕事をより魅力的なものにしていきます。

県教育委員会は、「県立学校における教員の勤務時間の上限に関する方針」で「時間外の勤務時間を１か月45時間以内にすること」「時間外の勤務時間を年間360時間以内にすること」を目標としています。特に、過労死や健康障害の危険性が高まる月80時間及び年間720時間を超える時間外勤務を行っている教員をゼロにすることを目指しています。

多くの市町村教育委員会においても「勤務時間の上限に関する方針」の策定が進み、全県の公立学校において「時間外勤務一月45時間以内,一年360時間以内」を目指し、働き方改革の取組が推進されています。

「働き方改革推進プラン」の取組

「勤務時間の上限に関する方針」の策定を受けて、県教育委員会は平成22年より取り組んできた「多忙化解消アクションプラン」に代わる「働き方改革推進プラン」の取組を立ち上げました。その基本方針は、以下の通りです。

＜基本方針＞

県・各市町村教育委員会がそれぞれの方針に基づき主体的に取組を推進するとともに、県が市町村教育委員会の取組を支援することにより、全県の公立学校において時間外勤務一月45時間以内、一年360時間以内を目指す。

働き方改革推進プラン（前期；４月～９月）の取組においては、取組開始時と比較した「多忙化軽減・多忙感緩和」の数値は残念ながら前回集計を若干ではありますが下回る結果となっています。これは、新型コロナウイルス感染症への対応等による負担感が影響したのではないかと分析しているところです。

表１　多忙化は軽減されたか・多忙感は緩和されたか

＜令和２年４月～９月＞　（ポイント）

校種／項目	多忙化軽減	多忙感緩和
小　学　校	3.5→3.4	3.6→3.4
中　学　校	3.6→3.4	3.7→3.5
特別支援学校	3.5→3.6	3.6→3.6

（評価基準）

＜多忙化軽減＞	＜多忙感緩和＞
１：多忙化した	１：多忙感が増した
２：やや多忙化した	２：やや増した
３：かわらない	３：かわらない
４：やや軽減した	４：やや緩和された
５：かなり軽減した	５：かなり緩和された

教職員の勤務実態調査結果より

県の勤務実態調査結果から、令和２年３月から６月にかけては、新型コロナウイルス感染症対策のために授業や部活動が中止になった影響等により、時間外勤務一月45時間を超える割合は下がりました。しかし、データ全体を見ると長期休業期間以外は、目標にはまだまだ手が届かない状態です。改めて、働き方改革を行う目的を再確認するとともに、これまで以上に業務改善の工夫を行っていく必要があります。

表２　時間外勤務一月45時間を超える教職員の割合

＜令和２年９月～12月＞　（%）

校種／月	9月	10月	11月	12月
小　学　校	33.6	49.1	36.0	29.0
中　学　校	62.5	64.8	57.4	48.2
特別支援学校	3.9	6.6	3.3	1.7
全　　体	43.3	47.5	37.6	30.8

一方で、月80時間を超える時間外勤務を行っている教職員が常態化しているといった報告が各市町村教育委員会から報告されています。教職員の皆さんの心身の健康を守るためにまずは各校での合意形成を強固にして、後期の取組においても各校や地域に合った取組の継続・進化をお願いしているところです。

表３　時間外勤務一月80時間を超える教職員の割合

＜令和２年９月～12月＞　（%）

校種／月	9月	10月	11月	12月
小　学　校	3.7	4.7	2.0	0.8
中　学　校	18.0	21.6	16.0	7.5
特別支援学校	0.2	0.2	0.1	0.0
全　　体	7.5	9.4	6.0	2.7

各学校、教育委員会の取組から

各学校、市町村教育委員から報告された事例からは「働き方の意識変容を促す取組や働きかけを行っている」「職員全員合意のもと最終退勤時刻を決めたり、ノー残業デーを設定したりしている」というようにチーム学校として取組を推進している様子を垣間見ることができます。

◆事例１（長岡市）　・水曜日は部活休止日、金曜日は部活動終了時刻を16：40にし、時間外勤務時間の短縮につなげている（７月～９月の平均の時間外勤務は令和元年度より５％削減した）。

◆事例２（妙高市）　・部活動指導員を導入し、平日及び休日の指導体制を工夫し、顧問の業務を軽減した。

◆事例３（県立特別支援学校）　・7:30の開錠、退勤時の声掛けを継続し、19:00前の施錠の割合を現在よりも増やす。さらに、ノー残業デーを月歴に明示して学部で計画的に業務を進めるように声掛けし、一斉退勤できるようにしている。

おわりに

質の高い教育を実現するために、学校の働き方改革の必要性を御理解いただき、御協力をお願いします。

魅力と活力ある学校づくり推進事業

高等学校教育課

はじめに

県教育委員会では、「県立高校の将来構想」に示した高校の将来像を実現するために、社会に開かれた教育課程や、生徒が夢を叶えることのできる進路指導体制の構築に向けて、調査・研究や企画の運営をする学校を支援しています。

平成30年度から「明日の新潟の飛躍につながる魅力ある学校づくり推進事業」として実施してきたものを、令和２年度から「魅力と活力ある学校づくり推進事業」として引き継ぎ、今年度はこの事業の最終年度となります。

本号では、指定13校のうち５校の具体的な取組について紹介します。

新潟向陽高校の取組

当校は、令和２年度入学生から単位制による全日制課程に改組しました。今年度入学生だけでなく、全校でＩＣＴの積極的な活用によって、生徒一人一人の興味・関心に応じた授業を行い、それぞれの「得意」を伸ばすことを目標としています。

当校では、図書室をＩＣＴルームとして整備し、iPad 50台が常時Wi-Fiに接続して使用できるように環境を整えました。このＩＣＴルームにおける生徒１人１台のiPadを使用した授業が積極的に行われています。

特に「Edutab（エデュタブ）」というシステムを使用した授業に当校の特徴があります。これは生徒全員のiPadで回答した内容が、大型の画面上に映し出されるというもので、１クラス40人の授業であれば40人それぞれの回答が同時に画面上に映し出されます。一人一人の意見や考えが視覚でとらえやすく、生徒の授業に対する参加意識の向上につながっています。生徒からは、クラス全員の前で発言することには抵抗があるが、iPadに自分の考えを書くのならば抵抗は少ない、という声も聞こえています。

また、関数アプリを使用してグラフの変化を学ぶ数学の授業や、跳び箱を跳ぶ様子を撮影して体の動かし方を学ぶ体育の授業など、様々な科目でiPadを活用した実践が行われています。さらに、iPadに配信された問題を生徒各自のペースで解いていくという取組も始めたところです。

高校でも授業で生徒が１人１台ＩＣＴ端末を使う時代が目前に迫っています。当校においてもＩＣＴを活用した授業を更に研究し、生徒の夢や進路を実現できる学校でありたいと考えています。

【Edutabを使用し生徒の回答を投影している様子】

巻総合高校の取組

当校は、４つの職業系列（商業、生活文化、食料環境、工業）の教育環境や学習成果を生かし、「生徒の夢を叶えさせ将来の地域産業を担う人材育成の取組」をテーマに、「『巻総ＣＨＡＴ』プロジェクトが地域を活性化する」をキャッチフレーズとして様々な取組を行っています。この取組は、生徒の課題解決能力の向上、地域産業の理解と望ましい勤労観・職業観の育成をねらいとしています。

『巻総ＣＨＡＴ』は、商業（Ｃ）家庭（Ｈ）農業（Ａ）工業（Ｔ）の職業科目を学ぶ生徒が連携した地域貢献プロジェクトで、今年で４年目となりました。平成30年度からは本事業としても位置付け、巻夏まつりをはじめと

した地域の様々な催事への参加や、TSKゴム動力自動車コンテスト参加など各系列の特徴を生かした活動とともに、４系列が連携したコメのブランド化「まき乃夢」の試みなどにも取り組んでいます。今年度は新たに、地元「りゅうのひげ会」と連携し、地域の伝統野菜である「りゅうのひげ」（食用菊）の栽培や料理への利用にも取り組みました。

また、学校支援アドバイザー協議会による学校運営の改善の取組、新潟国際情報大学の教員による地域活性化に関する講演、地域企業と連携した職場見学や校内企業説明会、インターンシップなど、様々な活動を行っています。

これまでの活動をとおして、地域の学校への期待の大きさに改めて気付くことができました。これからも、将来の地域産業を担う人材の育成に向け、総合学科としての特徴を生かし、魅力と活力ある学校づくりに取り組んでいきます。

【「まき乃夢」の袋詰めの様子】

村松高校の取組

当校は「地域と連携した進路実現を目指して～地域と共に１ＵＰ～」をテーマに、地域に根付く人材の育成に努めています。在籍生徒のほとんどが五泉市内の出身で、地元企業への就職希望者が多いこともあり、その希望を叶えられるような活動を、本事業を活用して行っています。今年度は予定していた計画の一部が、感染症防止対策のため実施できませんでしたが、昨年度までの取組も含め、各学年における内容を紹介します。

１年生では、早期の進路意識の啓発を目指し、新潟国際情報大学などへの上級学校見学、外部講師による高校生活についての講演会を実施するとともに、適性把握や自己分析のためのテストを活用し、生徒の自己理解や教員の適切な指導につなげています。

２年生では、全員参加のインターンシップを実施し、その事前・事後指導でマナー講習を行うなど、インターンシップの効果を更に高めています。加えて面接対策講演・面接指導なども行い、進路意識を高めて３年生になる準備を行いました。

３年生では、自己管理手帳を使い、自己の学習内容や経験を蓄積して、学びの価値を再認識できるようにするとともに、確実な進路実現に結び付けるため、企業等説明会・進路ガイダンスの充実を図りました。また、当校の生徒・職員は、五泉高校と合同での地元企業による説明会を行っています。

こうした活動をとおして成長できた生徒は、今年度の厳しい状況の中でも進路希望達成率100％となりました。今後も地域の期待にこたえられる人材育成に努めていきます。

【合同企業説明会の様子（令和元年度）】

塩沢商工高校の取組

当校は、「Employability（雇用される能力）」すなわち、「社会で必要とされる力」の向上をコンセプトとし、地域のニーズを見据えた特色ある教育活動と、企業が求める人材育成、地域に根ざした人材育成を目標にした教育活動を行っています。その一つのアプローチとして、本事業に取り組みました。

地域創造工学科では、機械・電気系の授業のほかに建設系科目を選択履修できることが魅力の一つです。建設系科目では、地域建設業協会に加え、幅広い協力団体に支援していただき実習等を行いました。建設に対する興味・関心の向上と地域特有の技術の習得と

いう目的から、本事業では、１年生は架橋や高速道路建設の現場見学、２年生は地域特有の雪を題材にした克雪と利雪の講話、３年生は利雪の講話をもとに地上と地下の温度変化を利用した地中熱による融雪技術の実習を行いました。３年間をとおして、建設業への興味・関心が高まり、地域理解や最新技術の習得ができたと考えています。

商業科では、湯沢や塩沢、八海山などにおけるインバウンドへの関心の高まりを受けて、地域の観光産業にかかわる取組を行いました。今年度は、対外行事への参加はできませんでしたが、過去２年間は、地域観光の起爆剤として行われた「南魚沼グルメライド」へのボランティアスタッフとしての参加や「軽トラ市」における販売実習などを行いました。校外での活動をとおして、生徒からは、地元の魅力を新たに発見できた、地域住民のやさしさを実感できた等の声が聞かれ、地域理解が深まったと考えています。

本事業での成果を、令和４年度からの新しい教育課程に反映していきたいと考えています。

【架橋工事の説明を受ける地域創造工学科の生徒】

久比岐高校の取組

当校は本事業の指定を受けたことを契機として、授業改善やそのための環境整備を行っています。校内では「学び合い推進委員会」を設置し、授業改善方法を議論した結果、『学び合い』をはじめとする協働学習を推進することとしました。

上越教育大学からの協力を得て、平成30年度は数学で、令和元年度は国語、地歴・公民、数学、理科、英語の各教科において『学び合い』の研究授業や研究協議を行うとともに、授業の実施方法等を指導していただきました。今年度は12月９日（水）にＬＨＲの研究授業と研究協議を行い、各教科以外の場面での研究も進めているところです。

また、職員による県内外の協働学習の先進校視察や、「越後『学び合い』の会」や「学びの共同体研究大会」等への参加において得たものを情報共有しながら、様々な形式の協働学習の実践に活かしています。

さらに、電子黒板と教師用のタブレット型パソコン２台を設置した教室を利用し、書画カメラなどを使用して生徒の発表の場面を増やすなど、協働学習におけるＩＣＴの効果的な活用方法の実践を進めています。

これまでの協働学習の成果として、コミュニケーションが苦手な生徒の成長があげられます。生徒の自己評価において、「話したことがない人と話せた」等の記述が見られ、説明や発表の場面に慣れるだけでなく、生活全般におけるコミュニケーション能力の向上を感じ取ることができます。

卒業生の約半数が地元企業に就職する当校において、今後も地域からの期待にこたえられる人材を育成し、地域への貢献を続けていきます。

【学び合いの授業の様子】

おわりに

本事業の指定13校の活動報告については、４月頃、高等学校教育課のWebページにて公開する予定です。

令和３年度は新たに８校程度指定し、「県立高校の将来構想」の基本方針に沿った教育活動を行う学校の支援を予定しています。

今後も魅力と活力ある学校づくりを推進し、県立高校の活性化を進めてまいります。

新潟県高校生　理数トップセミナーについて

高等学校教育課

はじめに

県教育委員会では、新潟大学理学部の協力を得て、数学や理科に関する体験的・探究的な学習活動を行うことをとおして、本県高校生の興味・関心と、知的探究心等を育成することを目的として、「新潟県高校生　理数トップセミナー」を毎年開催しています。

理数トップセミナーの概要

令和２年度は11月15日（日）に朱鷺メッセ国際会議室を会場として実施し、高等学校と中等教育学校後期課程の108人が参加しました。例年は、３日間にわたり、グループ研究や学力コンテスト等に取り組んでいますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、グループ研究等を実施せず、午前中の理数学力コンテストと午後の特別講演会による、１日のみの開催としました。

また、三密を防止するため、大きな会場を用意したうえで、１校１チーム（６人以内）という制限を設けましたが、昨年度を上回る18校の参加がありました。

セミナーの様子

理数学力コンテスト（筆記競技）では、物理、化学、生物、地学、数学、情報の６分野からなる問題に学校単位のチームで挑戦しました。普段のテストとは異なり、協力し、学びを深めていました。

午後からの特別講演会では、国立天文台ＶＬＢＩ観測所、本間 希樹　様から、2020年ノーベル物理学賞の後押しとなった、ブラックホールの撮影成功の経験を踏まえたお話があり、生徒達は目を輝かせて聴いていました。質疑応答も活発に行われ、セミナー終了後も、講師の前に質問の行列ができている様子が印象的でした。

講演テーマ「人類が初めて見たブラックホールの姿」

講師　国立天文台ＶＬＢＩ観測所　本間 希樹　様

生徒の感想

○教科ごとではなく、知識はすべてにつながっていると気づき、興味が深まった。

○本間先生が最後におっしゃった「研究は失敗の連続、情熱があってこその研究」という言葉が印象に残っています。

○私も研究者になりたいので、楽しんで勉強に励みたい。

科学の甲子園全国大会

当セミナーは「科学の甲子園新潟県予選」を兼ねています。「科学の甲子園全国大会」は、各都道府県の代表校が、理科・数学・情報に関する筆記・実技競技を行い、知識活用能力や課題解決能力を競う大会です。今年度は令和３年３月19日（金）～21日（日）に茨城県つくば市で開催される予定です。県予選の結果、長岡高等学校が県代表として出場することが決まりました。

おわりに

本セミナーの実施が高等学校等での探究的な学習の推進につながり、参加者の中から、将来、世界的な研究を成し遂げる人物が現れてくれることを期待しています。

スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）事業

高等学校教育課

はじめに

文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）」は、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて生徒の科学的能力や科学的思考力等を培うことにより、将来社会を牽引する国際的な科学技術人材を育成することを目指す取組です。

平成14年度から事業が開始され、令和２年度は全国217の高等学校等が指定を受けて、理数教育に重点を置くなどしたカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等に取り組んでいます。

新潟県内のＳＳＨ指定校

新潟県内では、新潟南、新発田、長岡、柏崎、高田高等学校の５校がＳＳＨとして指定されています。各校が、それぞれ次のような研究題目を設定し、特色のある教育活動に取り組んでいます。

＜新潟南高等学校＞

「未来イノベーションを牽引する、科学技術系グローバル人材の育成プログラム」

＜新発田高等学校＞

「科学技術を基盤とした、新領域を創造・開拓する未来のリーダーの育成
～新発田高校から　新発想！新発見！新発信！～」

＜長岡高等学校＞

「『課題研究』を深化・推進するカリキュラムによって、高度な科学技術人材を育成する」

＜柏崎高等学校＞

「柏崎の地域資源を活用し、科学的リテラシーと科学的探究力を有し将来の科学技術イノベーションを担う人材の育成」

＜高田高等学校＞

「探究する高田～科学的探究による深い思考力と国際交流による高い表現力の獲得、そして世界に向けた『第一義』の追求～」

【課題研究で実験（ＰＣでの計測）をしている様子】

令和２年度審査委員長賞を受賞

全国のＳＳＨ指定校や経験校が一堂に集い、各校の優れた研究を発表する機会として「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が毎年開催されています。令和２年度は、全国222の高等学校等（指定経験校含む）が参加してオンラインにより開催されました。同発表会において、高田高等学校の代表チームが、県内の高等学校として初めて二次審査を通過し、全国の代表６校による最終審査に進みました。最終審査の結果、同チームの研究が審査委員長賞を受賞しました（同賞は高田高等学校を含め３校が受賞）。

各学校においても、課題研究発表会等が年間複数回開催されており、生徒の探究的な学びや活動が活発に行われています。

【研究の成果を校内で発表している様子】

令和２年度医学科合格のための学力向上スタートダッシュ講座

高等学校教育課

はじめに

県教育委員会では、本県の喫緊の課題である医師不足解消に向けて、医師を志す生徒の医学科進学希望の実現を図る「医学科合格のための学力向上スタートダッシュ講座」を今年度新規に開催しました。

この講座の目的は、医学科合格を目指す他校の生徒と切磋琢磨する場を設け，医学科生による講演や予備校講師によるセミナーに参加することを通して、医学部医学科に合格するために必要な学力を身につける意志と意欲を高めることです。今回は、県立高等学校及び県立中等教育学校16校から51人の生徒が参加しました。

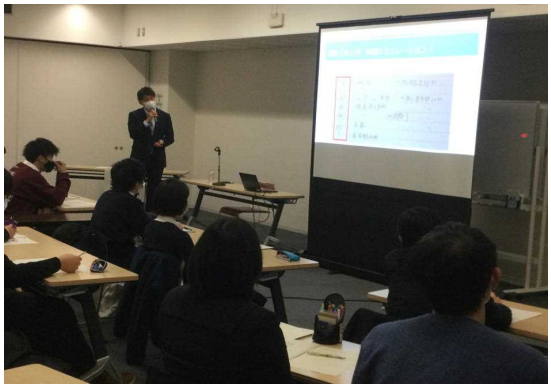
講座の概要

○期日　　令和２年12月28日(月)

○対象生徒　県立高等学校　　１、２年生
　　県立中等教育学校　４、５年生

○内容

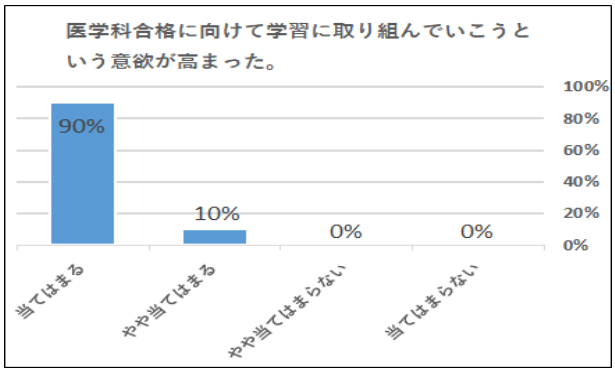
・開会あいさつ　　10:00～10:05
・医学科生による講演　10:05～10:50
・予備校講師によるセミナー（数学）
　　11:00～12:30
・予備校講師によるセミナー（英語）
　　13:15～14:45
・閉会あいさつ　　14:45～14:50



【講座の様子（医学科生による講演）】

参加生徒のアンケートから

＜参加生徒アンケートの回答＞(回答数50)



アンケート結果から､参加した生徒は、医学科合格に向けて学習に取り組んでいこうという意欲が高まったことがわかります。以下は主な感想です。

〈参加した生徒の主な感想〉

○　自分も現役での合格を目指しているので、実際に現役で新大に合格している方の講演を聴くことができて、とても良い経験になった。

○　同じ進路を志す仲間と志望している進路に合った問題も解いて、まだ自分には実力が全然足りないということが分かり、これからの意欲につながって良かったです。

○　数学も英語も基礎を伸ばすことで合格率が高まると思いました。家では発展問題にも挑戦してみます。

おわりに

参加した生徒たちは、講座を通して、医学科合格に向けて何が必要かを考えるとともに、志を同じくする仲間から良い刺激を受けたようでした。

県教育委員会としては、引き続き、医学科進学希望者の医師になろうという意欲の向上を図るとともに、生徒の学力向上に資する取組を進め、将来、医師として本県の医療を担い、活躍できる生徒の育成を図ってまいります。

インフォメーション

●県立近代美術館　（長岡市）

企画展「Viva Video!　久保田成子展」

新潟県西蒲原郡巻町に生まれ、ニューヨークを拠点に国際的に活躍したヴィデオ・アーティスト 久保田成子（1937-2015）の没後初、日本で約30年ぶりの個展です。

代表作のヴィデオ彫刻をはじめ、ドローイング、資料などで初期から晩年までの活動を幅広く紹介します。

Shigeko Kubota Portrait © Tom Haar, 1972.
Courtesy of Tom Haar and Shigeko Kubota Video Art Foundation.

○会　期　３月20日（土・祝）～６月６日（日）
○会　場　県立近代美術館　企画展示室
○休館日　毎週月曜日（５月３日は開館）
○開館時間　午前９時～午後５時
（観覧券の販売は午後４時30分まで）
○観覧料　一般1,000円（800円）
高校・大学生800円（600円）中学生以下無料

コレクション展　第４期

［展示室１］**近代美術館の名品**
［展示室２］**名画　世界一周**
［展示室３］**水彩画の世界**
○会　期　開催中～４月４日（日）
○会　場　県立近代美術館コレクション展示室
○観覧料　一般430円（340円）
高校・大学生200円（160円）中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金です。
※障害者手帳、療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。

県立近代美術館
住所　長岡市千秋３丁目278-14
ＴＥＬ 0258-28-4111
ＵＲＬ https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/

●県立万代島美術館（新潟市）

企画展「芳年　激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」

《芳年武者兀類
源牛若丸 熊坂長範》
明治16年（1883）
©西井コレクション

月岡芳年（つきおかよしとし）（天保10-明治25／1839-92）は、江戸に生まれ、12歳で歌川国芳に入門、社会制度や価値観などが大きく転換した幕末・明治の激動期に大衆の人気を集めました。「血みどろ絵」「無惨絵」と呼ばれる初期のシリーズがその代名詞となりましたが、手がけたジャンルは武者絵、役者絵、怪奇絵、戦争画、美人画など多岐にわたります。彼の作品を特徴づける斬新な構図、華麗な色彩、豊かな画面のドラマ性は、現代の我々をも魅了してやみません。

本展では、芳年の画業の全貌を時代順に４章構成で紹介します。素描や画稿、版木、肉筆画なども併せて展示し、芳年芸術の秘密に迫る内容です。

○会　　期　３月20日（土・祝）～
５月５日（水・祝）　※予定
○休 館 日　３月22日（月）、４月５日（月）、
４月19日（月）
○開館時間　午前10時～午後６時
（観覧券の販売は午後５時30分まで）
○観 覧 料　一般1,100円（900円）
高校・大学生900円（700円）
中学生以下無料
※（　）内は有料20名以上の団体料金です。
※障害者手帳、療育手帳をお持ちの方は観覧料が免除になります。受付で御提示ください。
※本展では、前売券の販売はありません。
※３月７日（日）まで「岡本太郎展　太陽の塔への道」を開催。３月８日（月）～19日（金）は展示替えのため休館します。

県立万代島美術館
住所　新潟市中央区万代島5-1　朱鷺メッセ内
万代島ビル５階
TEL　025-290-6655
URL　https://banbi.pref.niigata.lg.jp/

【お知らせ】
・マスクの着用に御協力をお願いします。
・新型コロナウイルス感染症の状況により、開催内容に変更が生じる場合もございます。最新の情報は美術館ウェブサイト等で御確認ください。

※PDFファイルで御覧の方は、下線部(Webページアドレス)をクリックすると、直接該当Webページにジャンプしますので御活用ください。
※県ホームページからバックナンバーも御覧いただけます。
「新潟県　教育月報」で検索してください。

教育月報

発行所　新潟県教育庁総務課
所在地　〒950-8570
新潟市中央区新光町４番地１
電　話　025-280-5587
ＦＡＸ　025-285-3766
E-mail　ngt500010@pref.niigata.lg.jp
Web 版 URL：
https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kyoiku/
本紙に関する御意見がありましたら、お寄せください
＜無断転載を禁ず＞